東洋文庫

名不記 二

小田原より江戸まで

301-54
1200501367332
301
54

始

東海道名所記二

小田原より箱根へ宿り

小田原ほり河の戦場あり。町の右の方宿の入口ふ。小田原城の遠橋あり。町とうり地蔵堂あり

うそのうらふ松山あり。石垣山あり。

とうふ。氏直とせしふ河。古国秀吉ひでんとうひ

ひてあり。名所山は小田原石名所たちう

出あり。ふ。小田原是結けやさ。まる本陣

あり。箱根又宿は右の方うり外郭あり。東国海

道一の名所也

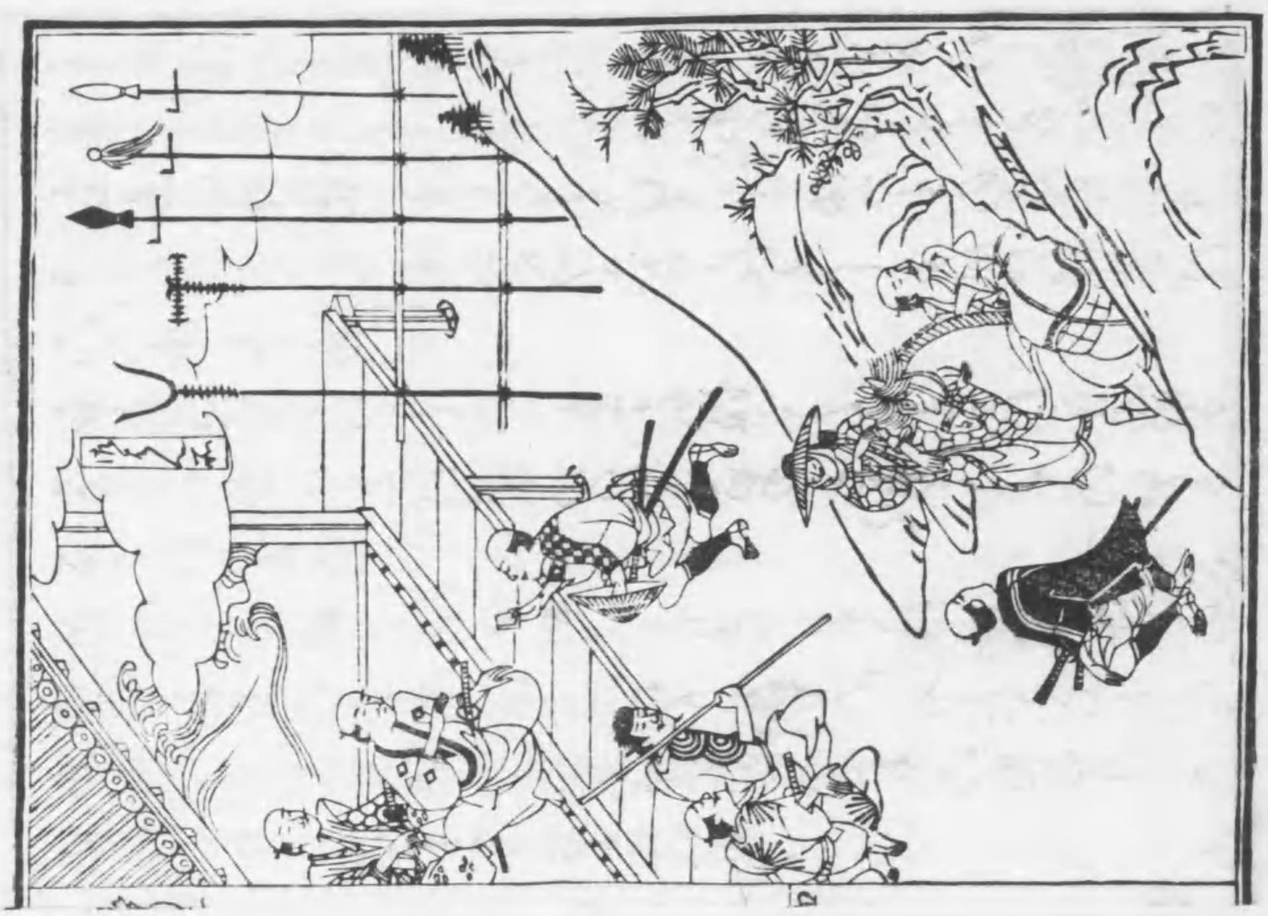
湯かの橋ふ。右の方川名とゆけど宝あまり水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てゐるうれくのゆふぐれ
おうてゆくものあり
こがとよれり。さらに
ひてふぐるさつきま
ところぞうこうの
樽のまわりさうし
ぐんぐりかぐに
かてゆくかぐに樽を
の中に。樽酒しらふま
ひんぐさして
原の名あり。
あれは



[illegible]わらこ湯とて三百九十八町
西町 [illegible]ハこ湯乃内あまぶふ田あの内あり
はまの屋五の分町 中にわら [illegible] 乃ふ [illegible] わらて
蚊帳乃 [illegible] 町 [illegible] わら町 [illegible] 伊豆さ [illegible] この
さうしわり
るとく [illegible] けたば [illegible] 楽乃ふし男と [illegible] そのう
石乃板とう [illegible] そう [illegible] 板 [illegible] ば [illegible]
乃入湯 [illegible]
伊豆乃山 [illegible] 毛湯山 [illegible] [illegible] 中 [illegible] [illegible]
毛湯の [illegible] [illegible] [illegible]
豆 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] 湯 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] 毛湯

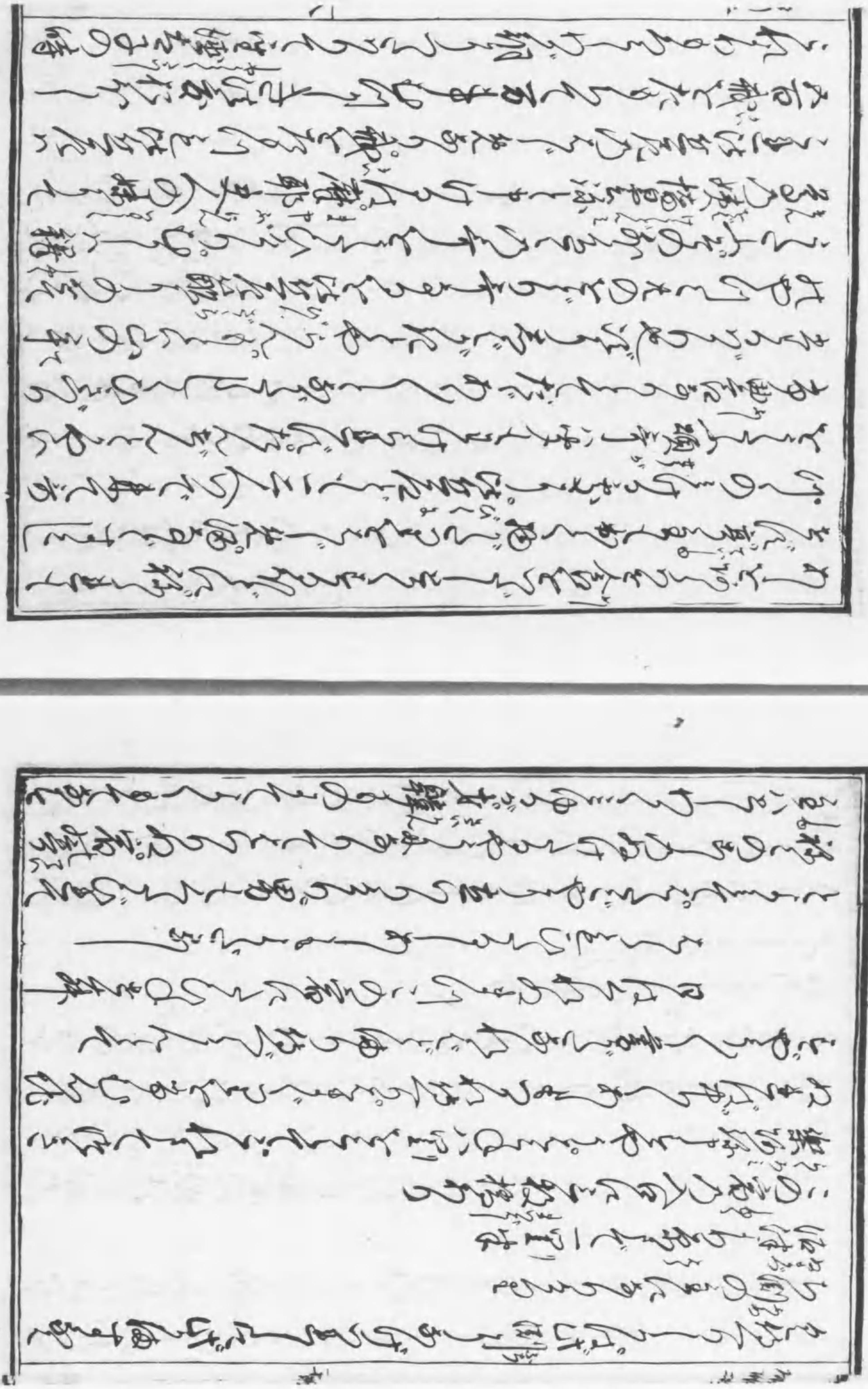
[illegible] 乃 [illegible] 一里 [illegible] 温泉わり
興湯 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
さ湯 [illegible] 湯 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
入 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
うれ [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
どう [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] 板 [illegible] 板 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
面 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

のわるとうぶ〳〵ばくはばぐらにていきあぐ〳〵ぢぐ〳〵のうをゆくうく〳〵ぶうりみは一ちか物ん〳〵ぶ〳〵のうきうぢ。
大河ぶ つぐ〳〵 ぢうぶ 屋ちうりていたのかぢび〳〵きたうりぢぐ〳〵めてぢぐ〳〵くの玉夫〳〵ぢてりくぢぐ〳〵ぢいぐぬ〳〵んぐうのぶ〳〵ぶうり出ありうぢ男うくをれうひぢぐうぶ
ぢうぶ八ぢ〳〵のうひをのうぢのひうぶ

三潟より沼津へ一里半

右の方に三潟の明神のやしろあり。石井の田に
そりそりあり。播の方ふかし。高砂
宮ありぬ。宮の橋ふかしまこと神ぐらひく
きよがつづきハ名の者にひぐきぞ。ぞ乃くゝ松のわ
しにそりぞ。そもくこの山の神ハ山ゝ伊豆乃国ち
うてた山祇神とひとつ。三潟と富士と高
親とまの山神ありぬ。富士浅間神姫命ハ
三島に浮文乃神ちうてはりまうぐ行ぬの田
沢ちのくやはとのぞ。ハねの世乃まうやわ
せ。三潟と中ちハ伊豆の三ツ山ちの
まちうぞ。三島式の神的橋ちのをちう。社ちうと

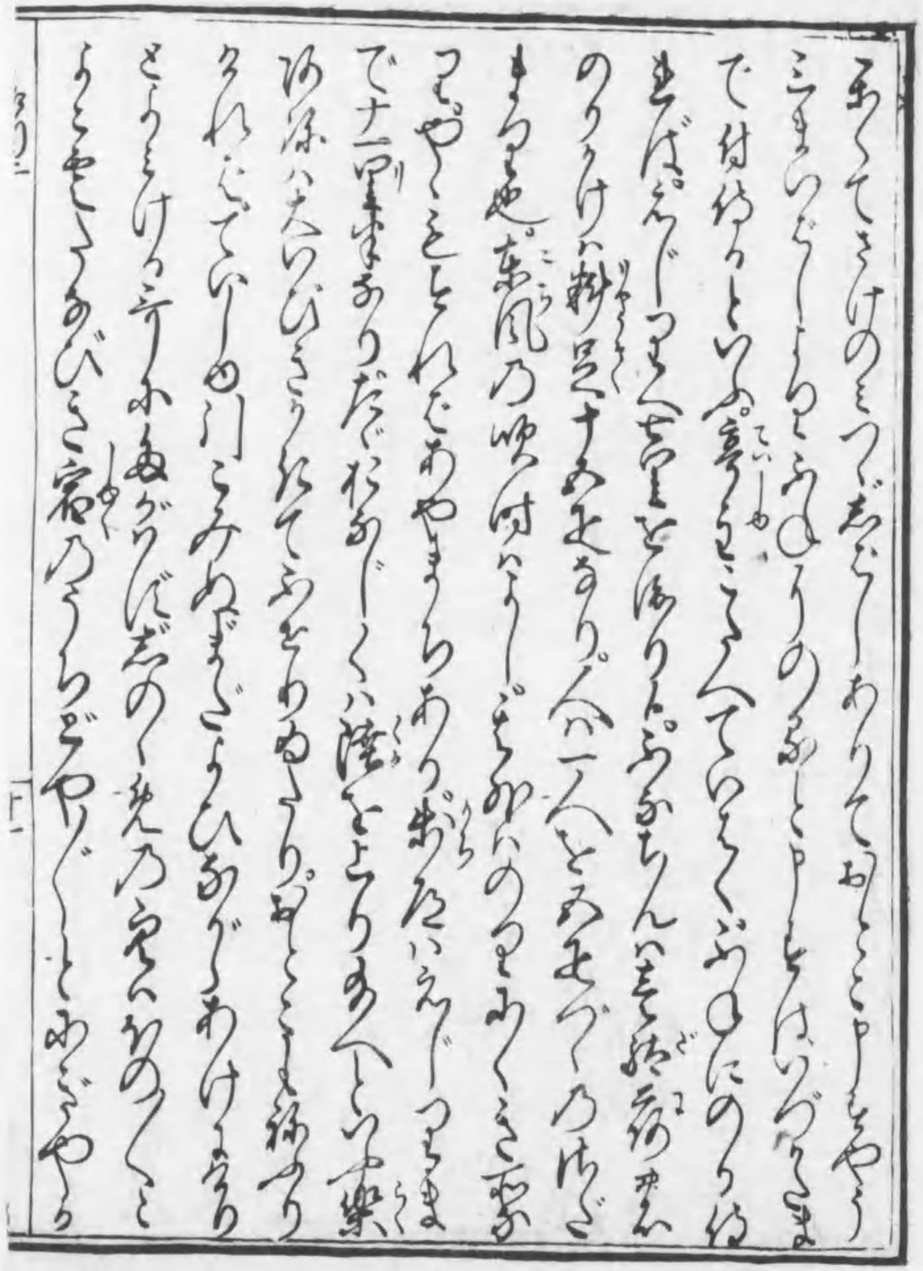
町づちの方よりそこ川あり。ぬくにの神乃使
ちうそうあざ行ぬ。ぬ行ぬ行ぬ行ぬ行ぬ
ちうぞ。武石とあり。をばさうにあり。橋乃郷新
乃くくなり。
たの方ちう沼あり
千貫戸井ハ町ちうと方のさちあり。伊豆のみと
駿河ちうる。橋ちうてそふあり。千貫よ
あちこ出ちうてぐく名付ちうぞ。駿河の国ち
駿河新君　このちうれよ方ちあ武蔵国乃牧場の時乃
釜倉中ちうあり
山の社南ぬて釜あり。ぬのうちに油がうちてを
ぬとぬ今ちく釜とちうてりちうにごのかて



百濟國よりわたる法師信とゝいふものの日本にまゐりたるに
日本にも法師たちにまじりて天皇の四時の
御供にあるべきにより和尚こゝろやすからず
ゝわたる者なるべしとて奏
しやうとばやかまへ乃ぶのみ
海の中にあるゝ所にて法師たちの伊勢熊野
うでに行とて法師の伊勢熊野
りさつるこの所に熊野堂法師とゝづくごもり
をこりそのゆゑをたずねてゝ
法師よかくさて侍ることゝ
世にあはいちまうで法師
ハ海にとゝまりあんとてこゝにあけ
りうとゝもとゝ先ゝりうる地ぶつ乃ゐにりとるへう
ありてぶつ海賊伊勢乃
をやうり法師ゝをとゝ
つとりまるりそうぶとかんうゝしんみど
ちうぶもあり小腸腑とゝ
そうんぐ深せんさつ
ちや深ゝ
ゝまてあぐろう
ゝれどその乃ゐ

びやうしふのつとめ。物部の法師原とこたへたるものぞの
料。逢鹿の国のうりとり。法師原
の方もわつさけの切書とつて。はやくこのうの
さよ。おなじ。はやはやさうれのまゐれぐて。唐土
ちらふの清きさ。明天皇石はちらふ帝とう
とてれのひてはの。うりて。夜なもとつかもう
ひさこうまそおそ。けうとぞの。まちふ帝とび
ふてまりてぞ。きさうたうそそまつぞ。天下帝
民のうちえんまつりごとをうれ。なけさめぞ
今のゑ面のびくよいうんぎんのうちこと
りをて方し。関風部。風にうつてみおれこと
うらふのぐらくれるまりうみく

て。楽の原をうとあげてあさうれぐ。乱のうら
ひうううそぞことてのしうとさまに
ぎくにぐはうとつぐてにげくちうり



なるに貝とさまし物をとりてごとうらうひびらう
げたるときぞ笠をうら美て樂の海と男と宇武
あくりげたの方ゟ千年松原ありうら緒ゞ原
たの方ゟ六代ゆかの石碑ありそのりこ平家の一
門ゟ國うてかうひぞの墓あるひいかあのこ
うりふたのび親と称してげとかくおる
ひふふくくふくてあるとをくもけるふ平氏の一
数うてこたらんものいぞゞ出て沈るうれ
しとぶれの主望ゟよハ拾うて武ゆかい維盛の墓
みありぶゟ思ひくたけるとゆ家の合戦時
汲ゞひゞゞてにうとくるうとゞ面あるのゞ
てう雅の久兵とのこまゞ久兵ゆこたう

さ海くゞゞてゞゞ紙ゞ墨ゞあるけあるく
たくこうゞしてゞ湯井の浦さでゞりしう
久兵うあひくつまてのゞまゞいうたとあ
ゞう雅うてゞ家をうれしゞ久ひんのまりあるく
終りしひされちくうてさられまひありしその
石碑ありとゞくそう

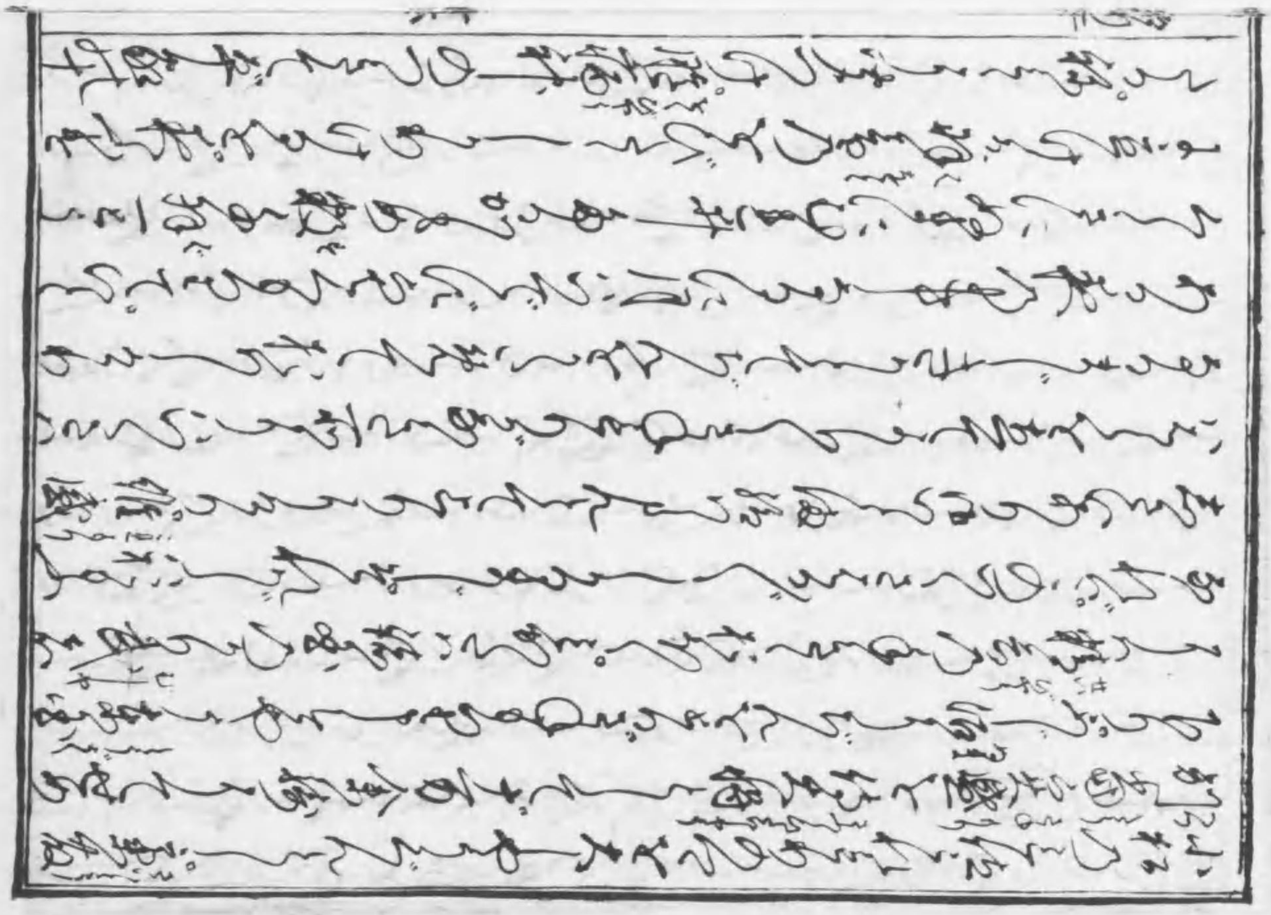
海うち町　ちとせ町　松ぬら町　乃中ぬれうて風
乃さわりたれどもまてすなくこゝろ
三里ゆけば二里もどりやたごのゆるねを足
うみぐ浦ぐ原　猟師　おりこ　おりこのかりうのれた音
畢師　おりうぐ　ふぐ川　ぜりのかりうのれた音
奥梁　とふ　ねうて　こゝろ　ぐやこ　ぐうて　いてけ
なくさまぐこのあまこ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
てあぐあぐびくらせあのとを一人のがりて　鬼
わりくとうあぐこの風のがりこぐけてたつ
出これ樂の海ちひあく
　　和ぬまはあつ出でこの世ぬ　ぬ
うぐさう海のこゝとのがりり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

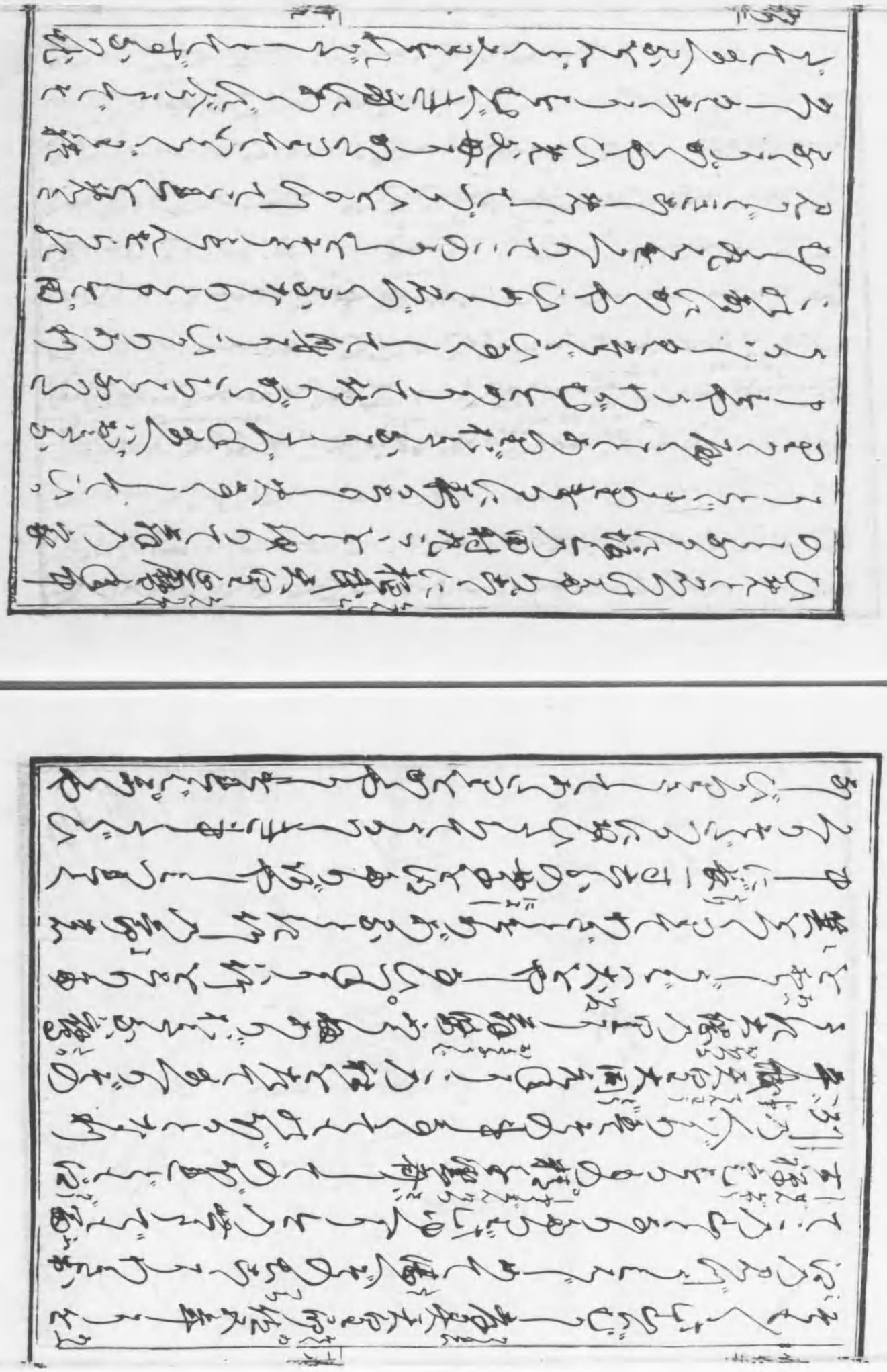
ゆかりこひしくのこりなるひかり
しのそこうたこひくづ井かそ乃書
神とうまつりてうへあり



万うさごとうや源氏ぐう物あふてしてとちてさ
へるてくしごるよものくごうくひりたくこと
しくるとハ雑とわとれぎくとてわまくたり
とちらゆさけうかぐこにたゆくくうしくそん
極ちどくごるこにゆくく旅人くりゆくまてがうぐくでを
まわくとまてをちちるもの数ちくどものくもやま
ちりちりちりくふくどくにうらとてだまとひくふ
くしおくこにわくくうわうくとてくさくくんはをさ
あげうはくまでみげのがりぬ今ハぬくを年後り
ならくうくと楽の絵ふくさくくをハうしゆぐくと
絵ちくう網ようてくさちハへをりがりあくやらん鶏び
鶏とくもくぬきたるくさ鶏ハ年あとくくうらて

をくりかりくさるくくうくくるとぶまくくに冨士山のあ
りくあくうくくうくくうく

と軒端ごとに物めはしたり絵ごとに又怪異岩八月十五日雨
積雪新しとしるべきこと
わとはんどりして留ひしかたくあるをた
く雲をうらびえるはいとけなきまま
行ちえんとのこうてこそうらいたり



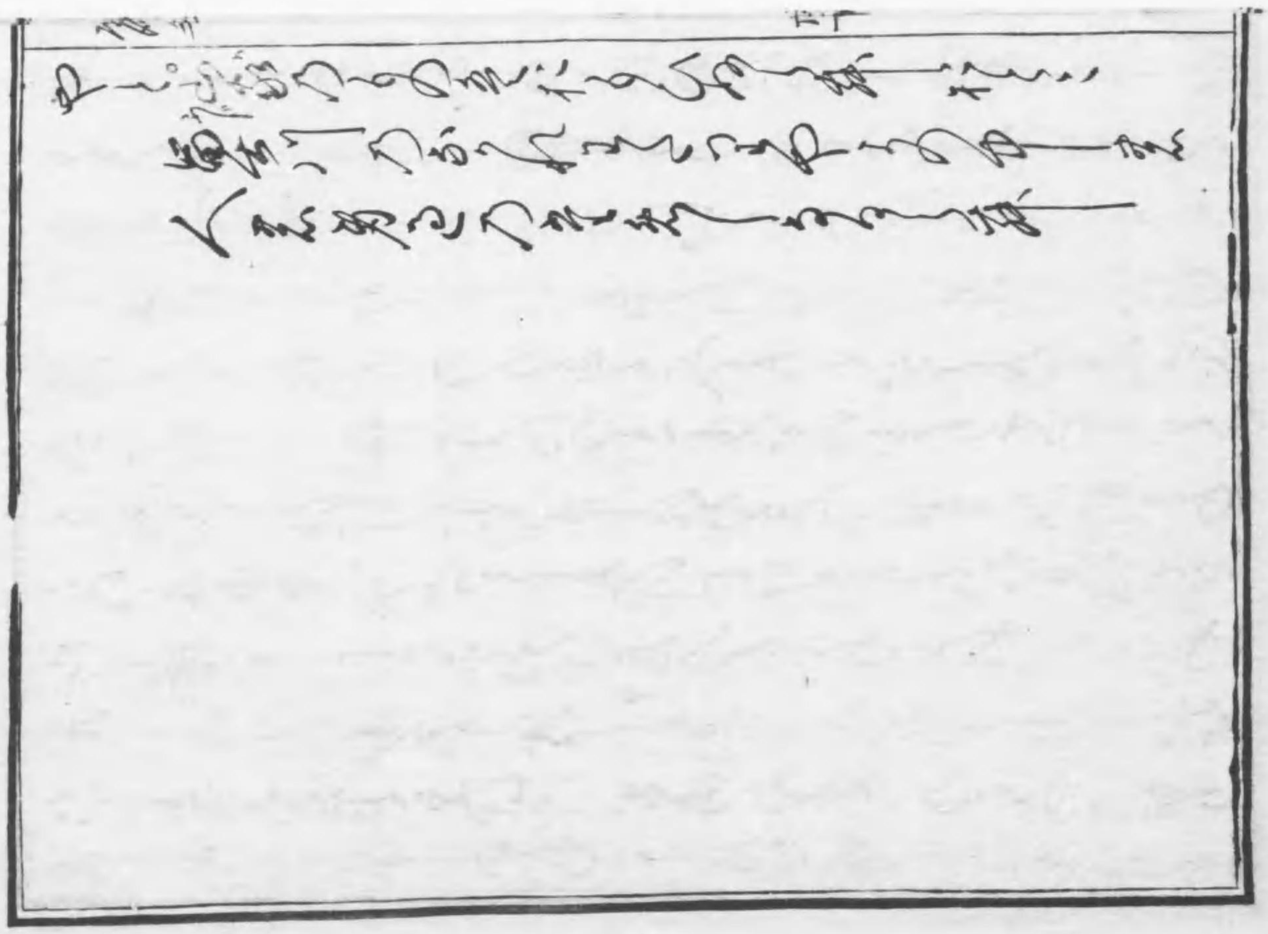
ひとりのがりてつくわるゐの中にひとり行ひとはれ
と山のつくべきうのがりまつりごとは無かたき
う繰宮にてはさらにぞれこそあるうの方の
神ありて義はこれを尊の神笑へられ大国主
の神ありとらて役のり和てゆ失てこれ山のう
がりてそまちのうふを海岸ちうでのがり
てゆうとときざこ山のとにわがたるとうてお
り摂津国のち神の治とうれまつるうう。新朝臣
義の石山ゆり摂津国住吉の天之御中主尊
高天原と称をつくうてゆ失うしをば山のまた
竹ちのはうふの治ゆ和こうまに天とうわふ氏の
業をうくやひのようくうてゆ治うるとゆ姫

見うゆにをりまつるとゆうくやひめ尊にとゆ
つうけううへこの業ありてそうらうゆ
にをうりうてやうとそうらうゆそのうり今の
う海でて治うるまひめゆ尊のがふとうを
れくゆ見のうう主のがふとうをまたうゆ
ゆうり尊る山の天の治うとそうゆ
ゆ八富士を尊ううゆうゆ山のあひざとうう。
ゆ中ふ持ちの治ゆ治ゆ
うとゆのもとうてこのまた孫人のうとうゆる
を紙解様のりの新人のうとうゆる
しけるゆ尊たうの神ふうてうをまひ
南海の中ふ治ゆうゆうけう海とうう物

さ野をひて今の所はあらたりそのうをまし
ゝ法は今のうゝまがあるとゝつゝ行り
樂は法をひつゝらゝくる

張花業つげの所ゝにをゆるやてゝいふ所を
かやうゝ地ごゝつゝ桂ひ川まつぐゝいぶし
のゝひありゝをん新をと稲とうゝる地
八田郷　ゝと手地又いうゝ山ゝ
吉原の町ゝゝ山ゝゝ所ゝ所ゝ岩間と
ゝ所ゝ新ゝ山ゝ富士川とのゝれてゝゝゝゝ
ゝ望ゝゝゝ長いうゝ山ゝ林ゝゝゝ時ゝゝ
ゝゝゝゝゝ
富士川　吉原と沢原とのゝ中ゝゝ大ぶみ

ゝゝゝゝゝ中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝ山ゝゝゝゝ川ゝゝゝ沢一ゝゝゝ川ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ川ゝ稽ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
この山ゝ岩ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



あくて浦とのながめくたの方ゆきこの浦地ぬこの
いくつぬ今集業原朝臣の歌
雅風の浦ふるる白菊は花のあるぬ者ぬ人の浦
とうとうるはこてのまうとら樂の浦こうこうこ
結園うおるのくの乃和おり。それ花のむの名
とよめうのくれぬとぬうこて古方のあるのの名
とうぬとうとうぬ和ぬ白菊の乃
てに立こうとうて樂の浦
浦風の浦ふだる白菊はるのあるの浦の名
とうこうこうけうの方うこうこれ
神原わ中井まで一里
おくいこるのふりぬるのけの

猿人みは者とうこうこうこうこ者りこうこうこ後
おうわ一ぐいこうこのゆへ者のうこうみるの。
るこのこうこうこうで。屋ぐこう者の同屋うあ
ひとうこで宮屋の方和とこう。一里と二里しわ
立へるとうこうゆくあうしけうこれ
宮屋の方き故方屋と西の者のあり沙敷方の方
中井までの町つきのあり。左ハ方やきの浦地
又宮の町こうぐこの方のこうやこうあり。
ぐ引屋の明神とこうこうこ。樂の浦
て宮みはしこうこの神こうこうこれこうこ
方こうこうこうこの神の名地。芦方の神
こうこうこうこのこうこ

しの山家のうしひやくしやうのかたちにてぐや
しきあまの志ほやきのけぶりたちのぼるうら
てをゆくこうりよの人のうぐいすやあれぢや
わうの人のうたうり
松じんてはなたるゆかに浦の塩のそのひ生とる
中井より奥はしの三重
ゆ井川
薩摩浄はそのうこ吳れそ玉義先生中おし
ありてぷしやうて金銀ちりてくそこげの下
うてあまぐしてあるびとこるや
親ちゐどこまこんぷ。ちゐの方ハこうてそうぷ
丈海ありう海ぐさハ一緒うちうあうてうちと

ふ浦ちのうぷのうの人くうあうとうちうちいて海ち
しぷてうこて親ちゐどまちゐこんちゐ付ち生。ぶ関の
ぷ中ちて出ちあうち西これて行ちうく海ちうちうざこ
なうぷ山ち屋元ちゐし新九月ふ朝鮮関ちり住宅家
親ちうぶちうに親ちうちうちうぐ先てぷうこ
ちしうこうて海ちゐこうちゐ。紫ちう海ちうそう
計ち
ふうちうふぷちうぷうちうち薩摩ちうれ親ちゐのぷ利ちそう
ちうこうぷ
のぐちうこんで樹のちうちゐよ親ちうどうやちうけ沙ん
入ゆ井ち海ち
塩風ち海ちづや乳ち繁ちん海ちのちうこ入ちうゆ入の海

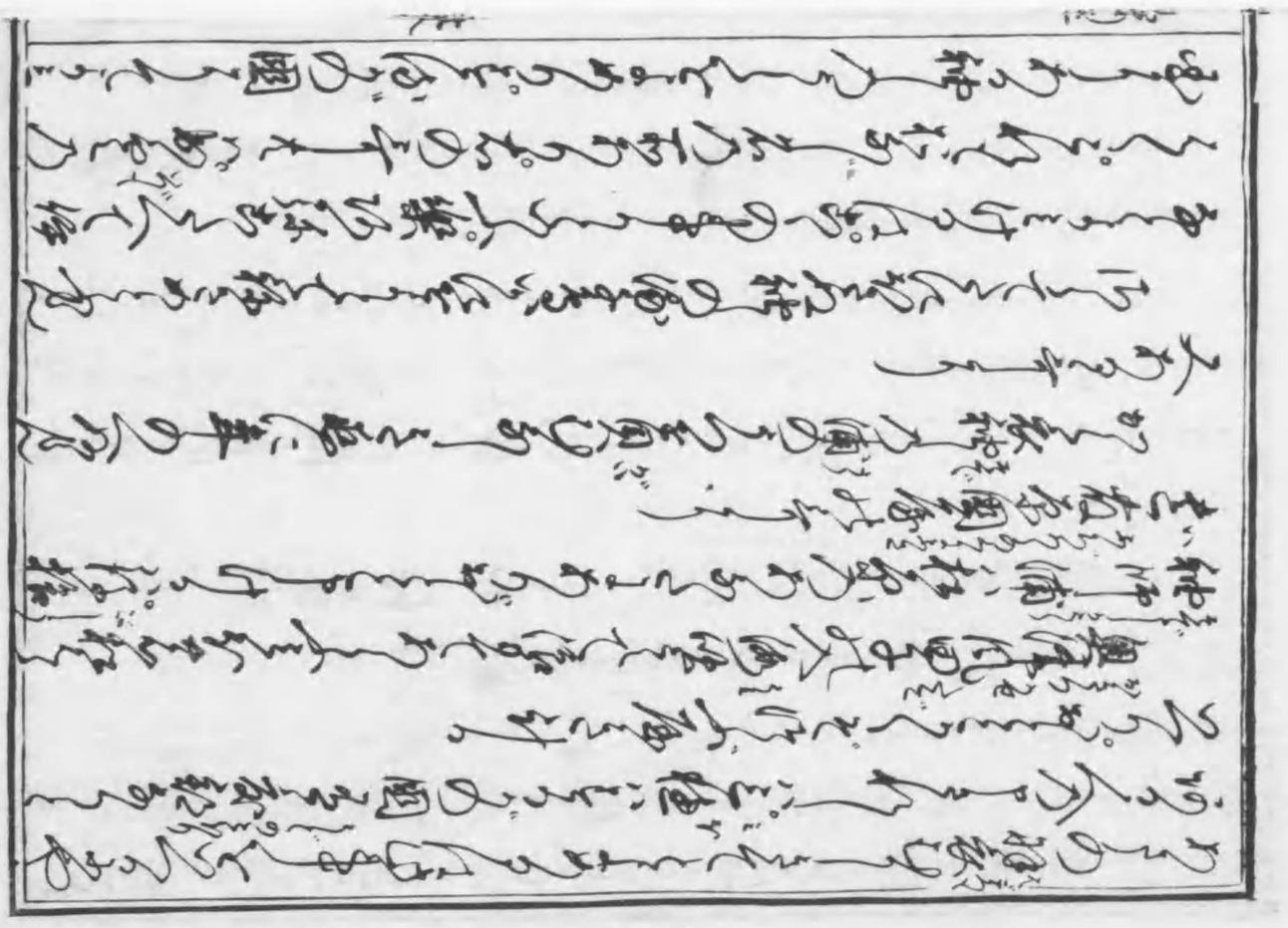
清見寺　風景まことにすぐれ晩景ひとしおあ
らまほしかりぬふるさとあらばあのひろくそそりたつ海
こはいとの波うち寄せ引くそのかすかなれ、海はみそぎ
なぎさく耳にあたるのの風うちそよぐ海面　海すそ海面
の彩ことごとく波うちぎわにぐつと出でたるあぐつと出でたるあ
ぐつとひとしてぐつとわたるあぐつとめぐるひとしおる
八橋門むかんとわたるあぐつとめぐるひとしおる
東の名文大和軍　帝国ことごとくけっこうなる
漢舟出新沢橋　駅路絵　声　第五十
しとしとうちうんうんうん

さて法名をうらつぎきて法名のちくごとて志ゝ武
やこと絵つゝ書はぬ法とてこゝろけてつくごとくゝ
うゝやとそれぞこゝろのひとのと推こゝろつゝ所極
物ゝ勇こゝ。世ゝふいてゝるこゝとゝるとん
ゝゝゝゝ武ゝゝ老ゝゝものゝゝこゝまゝとゝう
ゝゝこゝ新古今歌おが平ゝゝ

神はを聖ふゝ和田の海のゝ浜藻のゝ浜藻のゝ
浦ゝゝ　こゝゝゝこゝふゝこゝれ地ゝ重日山赤編ゝの
赤松宝一国神ゝ乃ゝ月ゝ宝ゝ冠ゝ法師ゝこゝ乃寺
とゝゝゝ法ゝ法ゝ法ゝ山ゝ法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
どゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つゝは古ゝゝこふゝゝゝ。ちゝの家ゝ八ゝ舟の上ゝけゝ

法ゝゝ。法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
わゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とにぶ双の法系ゝゝ。庭ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝけナセゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

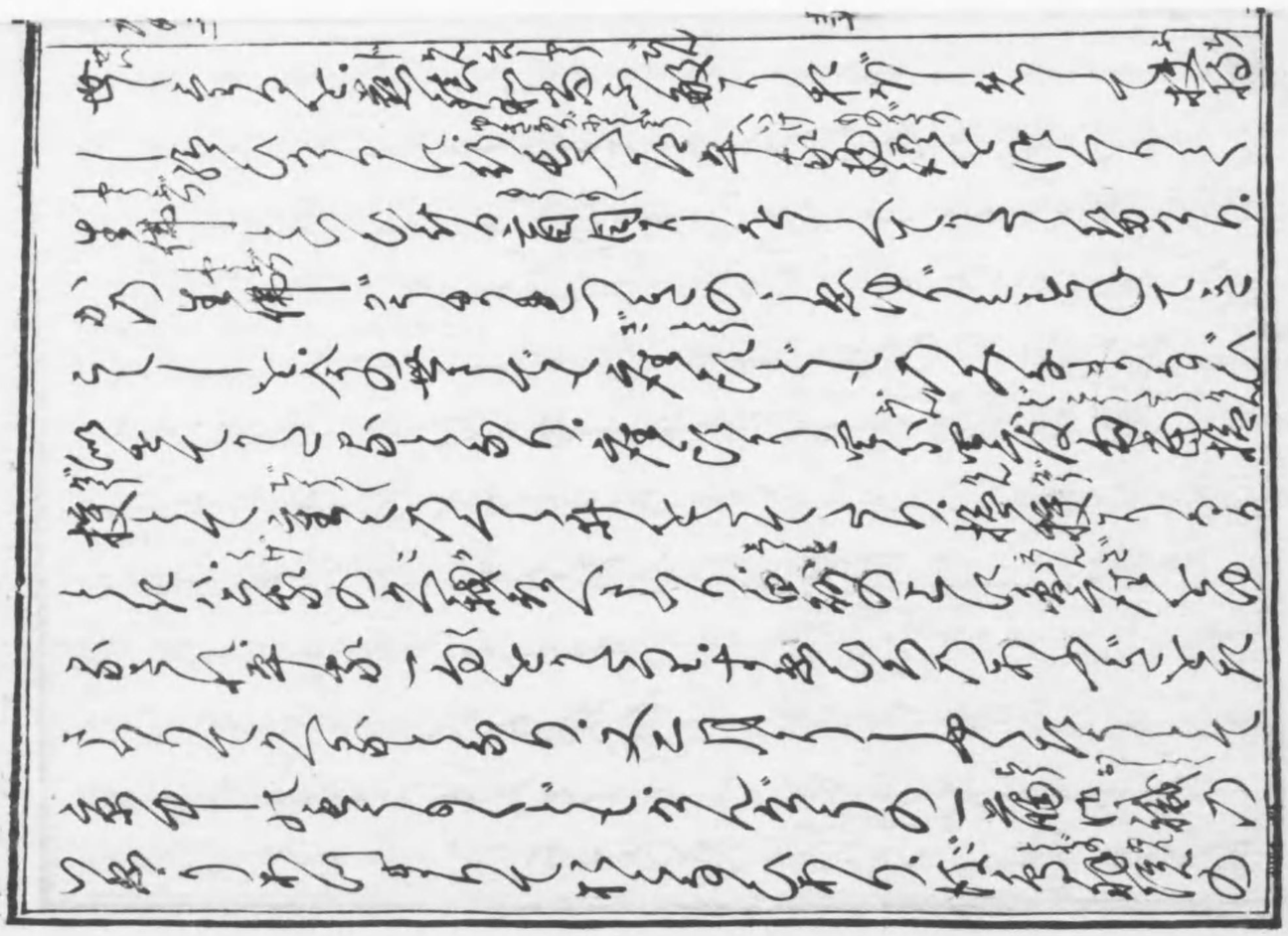
田よの浦　藻刈り　なわ　ひとつ　ぶ　ぶ
田よ　こ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
れ　ど　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま

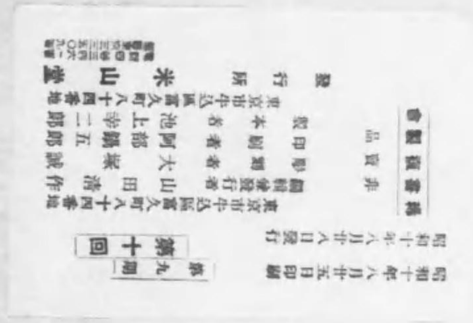


けつ三ハ三ちゝ
ゆ
ゆ
ゆ

てこのことてんぐどもはわうまうでしこ
ぐさ山の郎極とうそこのこうりうもうり
又その極人交じ一人びとりして入まうて辛
あとうこうびとは河くがくいとをうれぐし
てうくをわうこび辛あいうとあうるあり。龍
うしへうあくのうくわうり。主極ゑう胡國う
りうくうは河はびとをむうてうのうぐうくうこ
又白昌易の湯陽の山りあて。びとをはて河
国るもう移極とはうり。交はうば龍は
卿と名づくそのいわうへは山をうり必ゑがう
こうとと強じ又付は龍の貴ナと組ろうかりうと
びとうとひうて移極彼のうくうくとうくし強ひ

しはびれあううへ東こうびえうこうは移とうは
どうてゆううもううて廣極とうでめく
名とえううのわうり。紙胡うう色番中は乃河な
彈龍はわふうり
とうてはうきる彼今龍龍は師の極元と
しそのあびれとうとうはうり。山交は彼の
びとはれううびう辛あいうのうり。せえてこ
名はとうひうでうし。その乃後島胡は乃は河う。
うのうはしへはびくうんのうまれわ
住濱ゆ国幼もうはうめうれて七徳
ヨとうう。樂行の河編義乃龍うめうれて。び徳のうう
のまひとううヨううれでび徳のうう
しやと美名とうはけうとんうまうりひ通




明治十七年八月十五日印刷
明治十七年八月十八日發行
印刷兼發行者　東京市日本橋區通三丁目十番地　小林儀一郎
編輯兼發行者　東京市日本橋區通三丁目十番地　小林儀一郎
發行所　東京市日本橋區通三丁目十番地　小林儀一郎
印刷所　東京市日本橋區通三丁目十番地　小林儀一郎
賣捌所　東京市日本橋區通三丁目十番地　小林儀一郎
東京市日本橋區通三丁目十番地　小林儀一郎
東京市日本橋區通三丁目十番地　小林儀一郎

落